

禅とその文化

Overview

- ・ 禅とは何か
- ・ 栄西と臨済禅
- ・ 道元と曹洞禅
- ・ 室町時代の禅文化
- ・ [参考] 京都の仏教系大学と宗派

禅 (Zen) とは何か

- ・ 禅は国際的にもっとも知られている日本宗教
- ・ 鈴木大拙 (1870-1966) による海外への紹介



- 『禅と日本文化』 (岩波新書)
- 『日本的靈性』 (岩波文庫)
- 『禅とは何か』 (角川文庫)

禅の歴史

- ・ 禅はインドに古くからある修行法で、のちに仏教に取り入れられた。
- ・ 達磨 (Bodhidharma, 5世紀後半から6世紀前半)
 - ・ 中国禅の開祖。日本のダルマの起源。
- ・ 中国禅は唐 (618-907) から宋 (960-1279) にかけて発展したが、明 (1368-1644) の時代には衰退していった。



月岡芳年画『達磨図』
(木版画 1887年)



白隠慧鶴 (1685-1768) 筆
『達磨図』



栄西と臨済禅

栄西 (1141-1215)

- ・ 比叡山で天台教学と密教を学ぶ。
- ・ 1168年、中国に渡るが、天台山は禅の寺院に変わっており、短期間で帰国。
- ・ 1187年、再び中国に渡り、天台山と天童山で臨済禅を修める (5年間)。
- ・ 帰国後、禅による天台宗の復興を唱えるが、比叡山からは異端として迫害を受ける。朝廷は禅宗を禁止。



- ・ 1199年、幕府に招かれ、鎌倉へ。公家文化に対抗意識を燃やす武士層から歓迎される。
- ・ 1202年、幕府の支援を受けて、京都で建仁寺を創建。延暦寺に属し、天台・密教・禅を兼学する道場であったが、後に純粋な禅の寺院となる。栄西は天台僧として生涯を送る。

臨済禅の特徴

- ・ 臨済禅では、師から与えられた「公案」を解くことで真理を体得する。
- ・ 例：隻手 (せきしゅ) の声 (白隠慧鶴)
「隻手声あり、その声を聞け」
- ・ 室町時代には、臨済宗の有力寺院を中心に五山文化が栄える。

道元と曹洞禅

道元 (1200-1253)

- ・ 比叡山で天台教学を学び、建仁寺で禅を修めた後、1223年、宋に渡り、曹洞禅を修める (5年間)。
- ・ 禅こそ正しい法であると説いたため、比叡山から迫害される。宇治に逃れる。
- ・ 1243年、越前で土地の寄進を受け、大仏寺 (後に永平寺と改称) を開く。



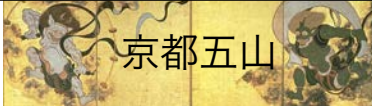
- ・ 曹洞禅では公案を用いずに、ひたすら座禅をする (只管打坐 しかんたぎ)。
- ・ 道元は臨済禅をも批判し、禅宗を含め宗派そのものを否定する。普遍的な仏教の探求 (新しい宗派を開く意志はなかった)。
- ・ 『正法眼蔵』 (しょうぼうげんぞう、Treasure of Knowledge of the True Dharma) を著す。



室町時代の禅文化

・ 臨済宗は鎌倉幕府の保護を受けて繁栄し、幕府は五山十刹（臨済宗寺院の寺格）を定める。最終的には室町時代になってから、三代将軍・足利義満が鎌倉五山と共に京都五山を定めた（京都五山が格上）。

・ 鎌倉五山：建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺



建仁寺
風神雷神屏風
(江戸時代初期)

- ・「五山之上」に南禅寺
- ・第一に天龍寺
- ・第二に相国寺
- ・第三に建仁寺
- ・第四に東福寺 (右写真)
- ・第五に万寿寺



金閣・銀閣

- ・ 三代将軍・足利義満
- ・ 北山第 (てい)、後の臨済宗鹿苑寺 (ろくおんじ) を造る。一階が寝殿造り、二階が武家造り、三階が禅宗仏殿造り。金閣と呼ばれる。
- ・ 八代将軍・足利義政
- ・ 東山の別荘に観音堂、後の臨済宗慈照寺を造る。銀閣と呼ばれる。
- ・ 金閣寺・銀閣寺は臨済宗相国寺派に属する。相国寺の山外塔頭。



The Golden Pavilion



The Silver Pavilion



花の御所 (足利将軍家の邸宅。絵の右側が北)



足利義満創建の「鹿苑院」跡が 京都で遺構発見 (『朝日新聞』2010.11.25)

室町幕府3代将軍・足利義満(1358~1408)が創建した「鹿苑院(ろくおんいん)」の遺構が、同志社大の今出川キャンパス(京都市上京区)で見つかった。建物は江戸時代の古地図に記されていたが、研究者は「存在が初めて裏付けられた」と説明する。同大が24日、発表した。

同大によると、鹿苑院は大学に隣接する相国寺(しょうこくじ)の塔頭(たっちゅう)として、義満が1383(永徳3)年に創建した。義満の禅の修行場に使われ、当時の有力な禅寺「京都五山」(天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺)を統括する役割も担ったとされる。

今回、建物の柱を支える「根固石（ねがためいし）」を6カ所で確認。それぞれ拳大の石が直径約1メートルの円状に敷き詰められており、鹿苑院の仏堂跡とみられる。周辺からは、器の底に「鹿」と書かれた瀬戸焼も見つかった。その形から14世紀末ごろの製作とみられ、鹿苑院の創建時期とも一致。鹿苑院が当時からこの地にあった可能性が高まったという。

同大はキャンパス整備に伴う発掘調査を8月から始め、来年3月まで続ける。鹿苑院には義満の墓もあったと文献にあり、同大歴史資料館の浜中邦弘講師は「戦乱で破壊されていなければ、今後の調査で墓石の発見も期待できる」と話す。



五山文化

- ・ 室町時代、京都五山を中心に五山文化が栄える。
- ・ 中国との活発な交流によって支えられる。室町時代には、中国との文化交流は禅僧がほぼ独占していた。
- ・ 五山文化は、禅の思想を文化の様々な領域に浸透させた。
- ・ 茶の湯、生け花、水墨画、能、武道（武士道）

石庭（rock garden, 枯山水）



龍安寺（臨済宗 妙心寺派）



[参考] 京都の仏教系大学と宗派

大谷大学	浄土真宗	大谷派（東）
龍谷大学		本願寺派（西）
佛光大学	浄土宗	
花園大学	禅宗（臨済宗）	
種智院大学	真言宗	
高野山大学（和歌山）		

これらの大学院に同志社大学（神学研究科）と皇學館大学（三重、神道）を加えると「京都・宗教系大学院連合」(K-GURS)となる。<http://www.kgurs.jp>